道徳 だより

令和６(2024)年２月２日
国立市立国立第七小学校
校長　　小畑　行広
道徳担当
第　６　号

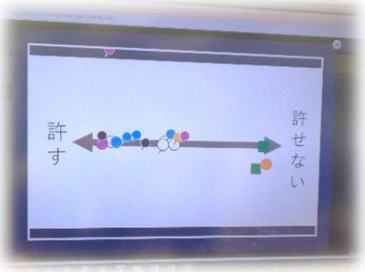
あっという間に1月が終わり、2月に入りました。七小では、2月9日の研究発表会に向けて、着々と準備を進めつつ、日々の道徳の授業に取り組んでいます。

さて、今回は5年生の授業です。そして、ついに今年度最後の研究授業となりました。

研究授業⑥

◆高学年分科会　5年2組　教諭
日　時:1月25日(木)5校時　主題名:広い心で(B 相互理解、寛容)
ねらい:自分と異なる意見や立場を尊重し、広い心で人と接しようとする態度を育てる。
教材名:「名医、順庵」(出典:「新訂　新しい道徳5」東京書籍)

今回の授業テーマは、「広い心」です。取り扱った教材は、「名医、順庵」という話です。順庵という医者の弟子である孝吉が、熱心に修行をしていました。しかし、遠く離れた病床の母親からの手紙を受け取り、何とか助けようと、葛藤の末、高麗人参を盗むが、他の弟子にそのことが見付かってしまいました。これまでの様子を見ていた順庵は、孝吉の過ちを一方的に叱責するのではなく、孝吉の心の内を静かに聞き、その過ちを許すという話です。渡邉先生が、教材を読み終わった後、子供たちは「そんな話だったんだあ…。」という声を挙げ、何とも言えないような反応をしていました。それは、子供たちが教材の世界に入り込んでいた証拠であり、この後、子供たちは自分の考えをどんどん表現していきます。



孝吉の過ちを許した順庵の気持ちを考えた後、「もし、自分が順庵だったら、孝吉を許すことができますか？」という発問をしました。これは、教材を通して、より自分との関わりの中で考えさせるための工夫の一つです。子供たちは、1人1台端末で右の図のように、「許す」「許せない」または、その間や微妙な位置も含めて、自分の考えを表現しました。5年2組では、比較的「許す」という考えの児童が多かったのですが、「許せない」と考える場合やその間の場合も、子供たちはその根拠となる自分の考えをしっかりと話していました。もちろん、これは、どちらが「正解」かを決めるものではありません。盗みはしてはいけない、しかし、母親を助けたいと思う孝吉の優しい心を思うと…。そんな葛藤から「広い心」とはどんな心なのかを考えたのが今回の授業でした。

最後に、講師の石丸憲一先生からいただいたご指導の一部を紹介します。

○児童の真剣に考えようとする姿勢が素晴らしかった。
○この難しいテーマに対して、思っていた以上に深く考えることができていた。また、考えたことをしっかりと言語化して学級全体に発表することができていた。
○ICTの活用によって、児童の考えの分布が視覚化され、話合いのきっかけとなっていた。
○なぜ順庵が許したのかということについては、少しモヤモヤが残った印象だった。児童の意見への教師の価値付けがあることで、更にねらいに迫ることができた。

子供たちの姿から、授業後の協議会では、先生方も様々な意見を出し合いながら「広い心」について考えることができました。今年度のまとめとなる研究授業において、道徳の授業は、一方的に教え込むのではなく、私たち教師も、子供たちと一緒にじっくりと考えることが大切なのだと改めて感じさせられました。